独立歩兵第十旅団独立歩兵第二百三十大隊部隊略歴

年月日	概要
	部隊長官氏名
	陸軍大佐　堀江三鹿吉
	陸軍少佐　中島保
	編成完結状況
昭一九、一、四	部隊は軍令甲第百十五号に基き四国丸亀に於て編成に着手
一、八	編成完結す
	編成要員は留守第五十五師団隷下各第百十二聯隊第百四十三聯隊第百四十四聯隊補充隊より差出を受け将校以下優秀にして戦力充実しあり
	部隊の行動概要及其日時
	部隊は編成完結後約一ヶ月
二、一〇	四国丸亀を出発
三、一	山西省陽曲県太原に到着
三、一〇	前任部隊と警備を交代、爾後終戦に至る迄太原周辺の警備に任ず
八、一四	終戦と共に逐次兵力を太原市に集結し復員のため帰還準備をなすと共に
九、一五	第二戦区第八収容所に入所武装解除

1949

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、四、一八	復員のための先発者二〇〇名をして大原を出発せしむると共に主力は
二六	太原出発、鉄道輸送により石門を経て
二九	天津に到着
五、五、	同地発、同日塘沽出帆
一四	山口県仙崎町に上陸復員となる

内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

1950

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第十旅団通信隊部隊略歴

部隊長　陸軍中尉　小橋　昇

年月日	概要
昭一九、一、四	編成完結状況
一、八	陸甲第百十五号に依り山口県山口市に於て編成下令
	歩兵第四十二連隊補充隊に於て編成を完結す
	編成時に於ける部隊長並人員左の如し
	部隊長　陸軍中尉　中尾輝茂
	人員
	将校　三名
	准官　下士官　一一名
	兵　九七名
	計　一一一名
一、八	行動の概要及其の日時
	山口県山口市に於て編成完結
二、一〇	北支那派遣の為山口市出発
二、一	中華民国山西省榆次県榆次到着、同地に於て第六十二師団と警備交代準備

1951

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二、二九	山西省平定県陽泉に後駐し次六十二師団歩兵次六十三旅団通信隊と警備交代準備
三、一〇	警備交代を完了し独立歩兵次十旅団長の隷下に在りて同日より同地に於て石太線同蒲線両側地区の警備
二〇、四、二五	部隊長陸軍中尉中尾輝彦東部軍管区司令部留守部に転属、陸軍少尉小橋昇部隊長代理を命ぜらる。
五、九	原任務のため山西省陽曲太原に後駐
六、三〇	陸軍少尉小橋昇 部隊長に補せられる
八、一五	山西省陽曲県太原に於て終戦となり、本来同地に在りて復員準備
二一、四、二七	復員の為山西省陽曲県太原出発
三〇	天津到着
五、五	天津出発
五	塘沽出帆
九	佐世保入港
一二	佐世保上陸
一八	復員完結

内地帰還時主力に分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

1952

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第十四旅団司令部部隊略歴

部隊長　陸軍大佐　内田　猥

年月日	概要
昭五、三、五	編成完結の状況 軍令陸甲第百十五号に依り関東軍、第六十三師団、第六十九師団、独立混成第三旅団、自動車第二十七聯隊より一部兵力を抽出し北支山西省上党道路安に於て編成完結す（旅団長陸軍少将吉川嘉芳） 行動の概要
一九、三、	山西省上党道路安地区警備
九、	大岳地区三有軍共同作戦参加
二〇、三、一	旅団長交替（旧陸軍少将吉川嘉芳、新陸軍少将元泉馨）
四、	榆社武郷作戦実施
八、	長子県西方地区黄正作戦実施
八、一四	停戦詔書発布
八、二三	山西省潞安出発
八、二五	復員下令
一〇、一四	山西省邢県南田柏着、同日より同地にありて復員待機

1953

北支三九　内

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二、三、二七　旅団長交替（旧陸軍少将元泉馨、新陸軍大佐内田猪）
四、五　山西省祁県南田柏出発
四、五　山西省榆次着
四、二二　同地出発
五、一二　塘沽出帆
五、二六　佐世保上陸
五、三一　復員式終了

内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

1954

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第二百四十三大隊部隊略歴

年月日	概要
	部隊長官氏名
	初代　陸軍少佐　村田孫蔵
	二代　陸軍大尉　丸山良彦
昭一九、二、二五	編成完結の状況
三、五	昭和十八年軍令陸甲第二五号により編成着手
	山西省文水県に於て編成完結す
	行動の概要及其の目的
	編成完結同日より
自一九、三、五 至一九、八、三〇	山西省汾分県
自一九、八、三一 至二〇、二、二二	慈城県
自二、二三 至四、三〇	晋城県　附近の警備に任じ、其の内一部を以て
自一九、五、一 至一九、六、二七	西北河南作戦に参加せしめ、主力を以て
自一九、九、三 至一九、九、三〇	上黨道地区秋季南正作戦、及び

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自二〇、三、三〇 至二〇、四、三〇	上黨道南部掃蕩作戦に参加す
二〇、五、	金官作戦参加の為長治県慈安出発、爾後
自五、一五 至五、三〇	金官作戦
自六、一 至六、三	河南省靈宝県高家山附近の警備
自六、一三 至八、一〇	山西省安邑県運城附近の警備及収穫作戦に従事す
	終戦後石太線榆次附近の警備、東北線の警備に任じつつ
二、四、二二	復員内地帰還の為め山西省出発
五、三	一部（五四九名）先発
九	仙崎上陸
一二	主力塘沽出帆
二六	佐世保上陸、各々除（召集解除）隊
	兵力
	除隊召集解除者八九一（内地六五八現地二三三）
	死亡　一〇二
	生死不明　二八（内一四本土兵備要員）
	残留　七（戦犯容疑六、所在不明一）

1956

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	
概要	内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

1957

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第二百四十四大隊部隊略歴

部隊長　陸軍大尉　矢野義孝

年月日	概要
昭一九、二、一	編成完結の状況 昭和十八年十二月十日陸亜機密第四八四号に依り第六十二師団長編成担任官となり榆次に於て編成に着手す 第六十二師団隷下各部隊より大隊本部独立歩兵第四旅団の者を以て第一、第二、第三中隊を独立歩兵第六十四旅団の者を以て第四、第五中隊、歩兵砲隊を第六十二師団通信隊の者を以て通信隊を編成す
三、九	山西省沁県に於て編成完結す
三、五	行動の概要及其の日時 独立歩兵第六十四旅団独立歩兵第十五大隊及独立歩兵第二十三大隊より山西省沁県、武郷県、沁源県、榆社県の警備を継承し同地附近の警備に就く
自三、一八 至四、一	山西省榆社附近の作戦を実施し同地の警備を撤収す
自六、二〇 至六、二八	山西省陵川県附近の作戦に参加す
七、三〇	山西省襄垣県の警備を独立歩兵第二百四十五大隊より継承担任す

1958

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自一九、九、三 至一九、九、三〇	上黨地区秋季肅正作戦に参加す
自二一、三 至二一、二〇	十九秋大行ヲ二、ヲ三分区肅正討伐作戦に参加す
自二〇、二、一〇 至二〇、二、一七	旧正肅正討伐戦に参加す
三、八	衣垣県警備を独立歩兵ヲ二百四十六大隊に移譲す
自二〇、四、二 至二〇、四、一五	上黨道南部地区撤収作戦に参加し其の間沁源県の警備を撤収す
自四、一九 至四、二五	榆社武鄕地区討伐戦に参加す
五、七	大隊本部及建制二箇中隊を独立ヲ十警備隊に転属せしめ新たに大隊本部及二箇中隊を補填編成す
自二〇、八、三〇 至二一、三、三〇	山西省武鄕県南溝に位置し東沁線の交通通信線の確保に従事す
二一、三、三一	復員の為山西省武鄕県南溝を出発
四、一	榆次に到着
自四、一 至四、一三	同地集中所に在所す
四、一三	榆次集中所出発

1959

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四、一六　天津貨物廠に到着す
四、二九　帰国の為天津貨物廠出発
　　同日塘沽港より〇〇三七号に乗船
五、六　佐世保に上陸、同日復員をなす
五、七　福岡県二日市に於て復員完結

矢力

総員	二、三九九名
内地除隊召集解除者	三〇二名
現地除隊召集解除者	二四七名
死歿者	一〇三名
生死不明者	二一名
所在不明者	二七名
転属者	一、五八八名
入院	九六名
残留（其の他）	一五名

内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の経歴は省略す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第二四五大隊

部隊長　陸軍大尉　丸山剣二郎

年月日	概要
昭一九、三、一〇	編成完結状況 大隊は第六十三師団抽出兵力を主体とし河北省昌平県南口鎮に於て編成に着手し
三、五	編成を完結せり
三、五	編成人員は大隊長陸軍少佐宮崎岩馬以下一、四二七名にして南口出発
三、七	山西省潞安に到着、同区の警備を担任す
自一九、三、七 至二〇、八、二二	行動概要並其の日時
自一九、九、九 至一九、九、三〇	山西省潞安地区の警備
自二〇、八、二八 至二〇、三、三〇	山西省上党道地区秋季南正作戦
三、三〇	山西省分水嶺地区の警備
四、一	復員のため分水嶺出発
四、一三	榆次集結地に到着す 一部兵力（第五中隊）を天津集結地に前進せしむ

1961

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四、二二　部隊主力は榆次出発
二八　天津集結地に到着す
二九　第五中隊は天津出発
五、六　佐世保上陸、同日復員す、復員人員七七名
部隊主力は天津集結地勤務員二十一を残置し
五、二　天津出発
五、九　仙崎港上陸　同日復員す
復員人員　二四六名
五、二三　復員完結
兵力
総員　一〇二三名
内訳
現在員　五四三名
現地除隊召集解除　二三六名
特務団留用者　一五九名
戦犯容疑者　七名
生死不明者　二〇名
入院患者　五九名

1962

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

北支四一外

年月日	概要
	死歿者　五〇名 内地帰還時主力と分離し後員した一部部隊の略歴は省略す

1963

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第二四六大隊 部隊略歴

年月日	概要
昭一九、三、五	山西省晋城県沢州に於て編成完結
	同日より同地附近の警備
二〇、二、五	部隊長宮城中佐中部方一〇〇部隊長に補せられ新に独立歩兵第二百四十四大隊付陸軍大尉毛利武徳独歩二四六大隊長に補せらる。
三、一	配備変更のため山西省襄垣県襄垣に移駐、同日より同地附近の警備
二〇、八、一四	停戦詔書発布せらる
八、二五	復員下令 同日配備変更のため山西省沁県に移駐、同日より同地附近の警備
八、三〇	配備変更のため山西省榆次県榆次に移駐、同日より同地附近の警備
九、二	停戦協定締結
一〇、一〇	配備変更のため山西省沁県に移駐、同日同地附近の警備
二一、三、三〇	移駐のため山西省沁県出発
四、二	榆次着
一三	内地帰還のため榆次出発
一六	天津着
二九	塘沽港出帆

1964

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二一、五、六	佐世保上陸
同日	復員式終了
五、一六	復員完結　於二日市
	内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

1965

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第十四旅団通信隊部隊略歴

部隊長　陸軍大尉　横井厳一良工門

年月日	概要
昭一九、三、五	編成完結の状況 北支山西省上黨道長治県潞安に於て昭和十八年度軍令陸甲第一一五号に依り電信第九、第十連隊、第六三、第六九、第一一〇各師団通信隊、独混一、三、三、四、九旅団通信隊及び其の他の部隊より兵力を抽出して編成完結す。
自一九、九、下旬 至一〇、中旬	行動の概要 独立歩兵第十四旅団司令部の隷下に在りて冀察道支城文水県及雁門道の大谷県及上黨道一帯の地区の警備に任ず。 大岳地区三有軍共同作戦に参加 陽城陵川地区続いて潞州高平地区の撤収作戦に参加
二〇、三、八、一四	潞安に於て停戦の詔書を拝す、爾後旅団司令部に隨い潞安より壮県に撤退
一〇、	南田柏に至り復員を待機す
二一、四、三	榆次に集結
二二	内地帰還復員のため榆次出発
二九	天津着

1966

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二一、五、一二	塘沽港出帆
五、二六	佐世保上陸
五、三一	復員式を完了す
二一、三、一〇	編成時部隊長三浦龍三助は転出し、
四、一〇	後任として現通信隊長横井大尉着任す
	内地帰還時主力に分離し復員した一部部隊の略歴省略す

1967

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五独立警備隊司令部部隊略歴

部隊長　陸軍少将　原田新一

年月日	概要
昭二、四、三	部隊主力と分離後の行動概要
四、一三	出発不後何等中共軍、土民等の妨害を受けらる事なく天津集結、事故退院第百十四師団と共にQ〇五七号に乗船、輸送指揮官荒田大尉指揮を受け
四、二二	塘沽出発
四、二九	佐世保港に上陸
	復員時に於ける事故有
	なし
四、二九	陸軍兵長　大田　勉
	申送り
四、二九	関係書類整理を完了し佐世保出張所人員班田中雇員に依託帰郷す

1968

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五独立警備隊司令部の一部部隊略歴

高級副官　陸軍大尉　久枝秀夫

年月日	概要
昭二一、三、二六	熊田信夫軍曹以下七名は遺骨護送要員として山西省平定県陽泉集結の為め、山西省平定県陽泉出発部隊と分離
四、六	熊田軍曹以下七名は第一軍遺骨護送部隊陽泉到着と共に全部隊輸送指揮及荒田大尉の指揮に入る
四、七	陽泉出発、乗船地に向う
四、一〇	天津収容所到着
四、二一	熊田軍曹以下七名（将校一名准士官一名下士官一名兵六名）は天津収容所出発塘沽に向う、全日乗船
四、二二	塘沽出航
四、二六	佐世保入港
四、二九	上陸、同日除隊召集解除

1969

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五独立警備隊司令部部隊略歴

部隊長　陸軍少将　佐久間盛一
（昭和二十年七月十日附補東部軍司令部付）
陸軍少将　原田新一
（昭和二十年七月十日附補現職同月三十一日運城に着任）

年月日	概要
昭二〇、三、一五	編成完結の状況 第五独立警備隊司令部は昭和二十年二月一日軍令陸甲第一八号により編成下令、陸軍少将佐久間盛一第五独立警備隊司令官に補せられ第六十九師団長爾次担任官となり第六十九師団を基幹とし編成着手
三〇	中華民国安邑県運城に於て編成を完結せり
	行動概要及其の日時 イ　終戦前
四、一	第六十九師団より警備任務を継承不来山西省安邑県運城附近の警備
自五、一〇 至五、三一	金官作戦参加 第一軍の計画に基き第十二軍部隊の（老対口進攻作戦に策応し河南省西部）靈宝県南方官道口金道口附近進攻

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、八、一四	終戦後停戦詔書発布
一八	復員下令
二二	先ず平遥附近に転進を命ぜられ運城より行軍により転進行動開始
九、二	停戦協定締結
一〇	山西省榆次県榆次に到着
二七	山西省平定県陽泉に移駐独立歩兵第十旅団部隊と同地附近の警備を交代、爾来石太沿線の交通確保に任ず
三〇	武装解除、爾後状況特に亜情により再武装
二、一、二一	完全武装解除
	復員の状況
一、三〇	(イ)軍属三六名内地帰還の為陽泉出発
三、七	塘沽港出発
三、一三	佐世保港に上陸
三、一六	(ロ)炭鉱労務者一〇名内地帰還の為陽泉出発
三、一三	佐世保港に上陸
四、七	(ハ)遺骨護送員七名陽泉出発
四、二九	佐世保港に上陸

1971

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四中旬
五、六
五、一六
四、三〇
五、三
五、一一
五、一九
五、一九
五、二一

(二)カ二次分離復員者一二五名は陽泉出発一部四〇名
一部四〇名
主力八五名 仙崎港に上陸
(ホ)司令部主力は所属人員、部隊を悉皆収容したる後陽泉を出発
天津に到着
大部は塘沽出発
佐世保港に
司令官塘沽出発
博多港に上陸せり
矢力左の如し
左記
総員 七七四名
死歿者 二二名
生死不明者 一一名(本土矢備要員九名を含む)
入院患者 七五名
転属者 七四名
現地除隊(解雇傭) 八三名
内地除隊(解雇傭) 五七三名(残務整理者五名及入院患者七五名を含む)

1972

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	現地残留者　一一名 主要なる地上部隊の戦歴 附録其の一の如し

1973

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

部隊略歴

年月日	概要
	部隊名 第五独立警備隊司令部 〃　作業部 独立警備歩兵第二十五大隊 〃　第二十六〃 〃　第二十七〃 〃　第二十八〃 〃　第二十九〃 〃　第三十〃 指揮者 陸軍中尉　斉藤金治
昭二、一、三一	部隊解散の概要 炭坑労務者として内地帰還のため北支山西省陽泉に集結 （陸軍中尉斉藤金治以下一六一名） 行動の概要

1974

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭三、三、一六	陸軍大尉　島田幸治指揮下に入り山西省陽泉出発
三、一九	河北省天津貨物廠入所待機
	待機間北支那特別警備隊司令部梅田兵長以下三名中隊に参加並井上准尉以下十名は戦犯容疑者として残留
三、七	塘沽港出発
三、一三	長崎県佐世保港上陸
	兵力
	総員　一五四名
	内除隊召集解除者　将一、准一、下一三、兵一三九名（残務整理者を含む）
	現地召集解除者　なし
	残留者（抑留者）　還兵准尉　井上　隆　以下　十名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

次五独立警備隊司令部の一部部隊略歴

陸軍少尉　信夫虎雄
陸軍曹長　富山萬次郎

年月日	概要
部隊行動の概要	
昭二、四、一七	次五独立警備隊先遣要員として中華民国山西省平定泉陽泉出発
四、二六	LSTにより塘沽港出発
五、四	仙崎上陸
五、五	二日市に至り残務整理者として事務処理中の処
五、七	任務終了帰郷す

1976

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立警備歩兵第二五大隊部隊略歴

指揮官　陸軍大尉　関　政蔵

年月日	概要
昭二〇、三、三〇	大隊は軍令陸軍第一八号に基き北支那河南省陝県会興鎮に位置し編成を完了す。同時陝県橋頭堡全地区警備の重任を負す 初代大隊長　陸軍大佐　手島主一 編成　大隊本部（含通信班）　小銃五ヶ中隊　銃砲一ヶ中隊 第三中隊は兵団命令に基き石地区隊配属となり、依然陣外先進陣地たる高家山一帯に屯す
四、八	独立警備歩兵第二十五大隊長陸軍大佐手嶋主一、補大邱師管区歩兵第一補充隊長
五、七	独立歩兵第百十九大隊附　陸軍大尉　大田代忠隆
自四、一八 至四、三八	補独立警備歩兵第二十五大隊長（五独警日命四月十日附） 二〇春陝県橋頭堡地区粛清作戦に参加す
自五、一二 至五、二八	大隊長指揮の下に支隊の左翼隊となり本部及小銃二ヶ中隊銃砲一ヶ小隊の編成を以て放井山一帯を掃蕩す 金官作戦に参加

1977

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

大隊長大田代大尉は大隊本部小銃二ヶ中隊銃砲一ヶ小隊を指揮し支隊の左翼隊として靈宝県北朝村猛攻占領後掃蕩中敵弾に殪れ

五、一六　十五時、壮烈なる戦死を遂ぐ

六、二七　独立歩兵第八大隊附　陸軍大尉　関　政蔵

補独立警備歩兵第二十五大隊長

八、一三　大隊は正午陝県支隊本部にて撤収に関する緊急命令を受領し直に之が準備に着手す

一四　二三、三〇第一線各隊前哨分遣隊の掌握なり

次で二四、〇〇以後各中隊の会興鎮（大隊本部位置）への集結開始

一五　〇七、三〇各隊集結完了し渡河を準備す

本日渡河せんとせしも渡航意の如くならず依て一応原態勢に復帰待期す

一六　〇七、五〇渡河開始、第五中隊、山砲小隊、第四中隊、銃砲隊、大隊本部、第二中隊、第一中隊の順を以て渡航せしも山砲小隊は途中転覆し河中に人員砲車弾薬器材其の他を失い、又第四中隊は民航利用渡航中狙撃を受け犠牲者を生ず、又後衛第一中隊は尾　し受けつゝも大隊全力の援護に依り事無きを得

一七　茲に二二、〇〇渡河完了し二六大隊配属中の第三中隊を掌握し命に依り聖人涧村に集結す

一〇、〇〇聖人涧出発　一二、〇〇八政村到着、昼食　一三、〇〇八政村出発　二四、〇〇

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	段村到着、同時支隊長より下月村集結の命を受く
	〇九、〇〇下月村集結、休止時襲撃を受けたるも之を排撃す、一三、三〇下月村出発安邑へ、安邑着一八、〇〇　運城へ
昭二〇、八、一八	
一九	〇一、〇〇運城着、命に依り東関旧兵舎に集結完了待機す
	段村到着時停戦の内命に接し、一同疑心暗鬼の状なりしも歩重く運城に辿り停戦の詔勅を拝し一同漠然として語らず　悲嘆に暮れ、一時突然自失の状なりしも新なる任務へ自覚に奮起し勇然次期行動を準備す
二三	〇八、〇〇運城発
二六	〇九、〇〇候馬鎮着、一八、〇〇候馬鎮発、臨汾へ、降りしきる雨をつき膝を没する泥濘を蹴りて一歩〳〵前進す、夜間行軍は暗黒に戈尺を弁ぜず部隊混淆し困難を極む
二八	〇六、〇〇臨汾着、大休止
三〇	〇七、三〇臨汾発　洪洞着一九、〇〇
三一	霍県へ前進の命を受け〇八、〇〇洪洞を発す
九、二	一〇、〇〇霍県着（仏休へ前進の命を受く）
三	〇八、〇〇霍県発
四	一七、〇〇仏休着

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五	〇九、〇〇分休発、平遙着一五、〇〇
	平遙にて大休止、自後の前進を準備す
七	一七、〇〇平遙発、列車輸送に依り榆次へ前進す
	榆次に於て被服糧秣受領す
八	一六、〇〇榆次発、飯迫へ（列車）一九、〇〇着
九	一一、〇〇盧家庄着一泊
一〇	〇九、〇〇盧家庄発　馬首へ（列車）一八、〇〇着一泊
一一	〇八、〇〇馬首発　一二、〇〇寿陽着一泊
一二	寿陽発列車に依り陽泉へ　一五、〇〇到着
	糧秣被服を受領す、同時乱流以東省境迄の鉄道警備を命ぜられ左の配備計画を執る
	方四中隊乱流――岩会、方三中隊岩会――下盤石、方五中隊下盤石（予備隊）
	方二中隊程家――下盤石、方一中隊省境――程家大隊本部、銃砲隊下盤石村、
一三	配備完了す
一七	大隊本部銃砲隊娘子関移駐
三〇	武装解除　集中営集結
一三、一四	方四中隊乱流殿収坡底村へ集結
一七	作業小隊配属

1980

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二一、一、二	完全武装解除
三〇	炭坑労務者復員
二、二五	第一次弱兵復員
三、八	第二次弱兵復員
四、一	第三次弱兵復員
四	作業隊後帰
一四	第二次分離復員
一六	復員準備の為陽泉集中命令受領
一七	一〇、〇〇中隊完全娘子関集結
	残置馬匹返納　先発陽泉へ前進
一八	第一中隊、第二中隊、第五中隊、銃砲隊陽泉集結
一九	郭隊陽泉集結完了
	土地建物の接収（於娘子関）
二一	第三、第四、第五中隊復員受検
	被服、需品糧秣接収（於陽泉）
二三	第一、第二、銃砲隊復員受検
二四	渡辺隊出発

1981

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二六　佐藤隊出発
二八　本隊出発
五、一　一九、〇〇天津着
二　〇八、〇〇天津収容所入所
六　一〇、〇〇出所、塘沽到着一四、〇〇（列車）
一五、〇〇L.S.T乗船
七　〇九、〇〇出帆
一一　一〇、〇〇佐世保入港
一三　上陸
一四　復員式
内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

1982

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立警備兵第二十六大隊部隊略歴

部隊長　陸軍大尉　朝岡正夫

年月日	概要
昭二〇、三、一五	軍令陸甲第一八号に依り第五独立警備編成下令
三、三〇	編成完結、同日より河南省陝県橋頭堡地区警備
自四、一八 至四、二八	二〇春陝県橋頭堡粛正作戦
自五、一〇 至五、三一	会官作戦
八、一四	転進の為河南陝県地区撤収
八、一四	停戦詔書発布
八、一八	復員下令
九、二	停戦協定締結
二、五、一〇	内地帰還の為塘沽港出発
五、一七	佐世保港上陸

1983

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立警備歩兵第二十六大隊部隊略歴

部隊長　陸軍大尉　朝岡正夫

年月日	概要
	編成完結の状況
昭二〇、三、一五	河南省陝県南南村に於て編成業務に着手
三、二五	概ね人員を掌握し引続き馬匹兵器の受領に移り
三、三〇	編成を完結す。時に総員　名なり
	行動の概要及其の日時
自四、一八 至四、二八	編成完結後直ちに六十九師団より河南省陝県橋頭堡地区の警備を継承
	二〇春陝県橋頭堡南正作戦に参加
自五、一〇 至五、三一	金官作戦に参加す。
	爾後引続き陝県橋頭堡地区警備中
八、一四	停戦の為河南省陝県地区を撤収
一六	同地区出発、孰柳なる土匪の防害を排除しつつ徒歩行軍に依り
一八	山西省運城（兵団司令部所在地）着、同地にて部隊整理の上
二〇	運城出発、徒歩行軍により

1984

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、九、八	山西省榆次県源渦鎮着、行軍中の入院者、落伍者等の掌握、着装被服の補給整理等実施したる後
九、一六	同地出発
	同日山西省榆次県西洛鎮附近に到着、石太線鉄道警備に任ず
一〇、三一	同地出発
	同日夕、平県陽泉着、独立旅成第一〇旅団より陽泉附近の鉄道及周辺要地の警備を継承服務し
二、四二〇	内地帰還の為陽泉出発列車輸送により
五、二	河北省天津着
一〇	河北省塘沽港を出発し
一七	佐世保に上陸（主力のみ他は三回に分け分離復員せしむ）し現在に至る。
	内地帰還時主力に分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

1985

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立警備歩兵第二七大隊部隊略歴

（至隆第一五六七九部隊）

部隊長　陸軍大尉　進　土岐

年月日	概要
	編成完結の状況
昭二〇、三、一五	軍令陸甲第一八号に依り第五独立警備隊編成下令
三、三〇	独立警備歩兵第二七大隊編成完結
三、三〇	山西省岡喜県安邑県夏県附近警備
	行動概要及其の日時
自四、一八 至四、二八	山西省夏県附近の討伐参加
自五、一〇 至五、三〇	河南省陝県附近の作戦に参加（会官作戦）
自六、一 至八、七	岡喜県安邑県夏県周辺集麦作戦に参加
八、一四	停戦に関する詔書発布に依り
八、二四	山西省岡喜出発、兵田の後衛を候馬鎮―臨汾―洪洞―霍県―平遥を経て
九、一二	山西省榆次県榆次到着

1986

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、九、二三	矢田は石太線の警備を命ぜられたるを以て、大隊は
九、二四	山西省榆次出発
	同日山西省寿陽県芦家着、同日より同地附近の鉄道警備
二一、四、一八	大隊は矢田命令に基き山西省平定県陽泉に集結を命ぜられ、同日陽泉に集結を完了
四、二八	大隊は帰還のため山西省平定県陽泉出発、
五、二	途中事故なく天津に集結完了
五、七	塘沽出発
一四	佐世保港上陸
	矢力
	総員　一、四二四名
	死亡　一五〇名（但し編成前の三柱を含む）
	入院　二一六名
	転属　一〇七名
	生死不明　一六名
	内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

1987

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一軍独立警備歩兵第二十八大隊部隊略歴

部隊長　陸軍大尉　伊藤勝雄

年月日	概要
昭二〇、三、一五	編成完結の状況
三、三〇	軍令陸甲第一八号に依り第五独立警備編成下令
四、一	編成完結
	行動の概要及其の日時
	第六九師団独立歩兵第百二十大隊より山西省垣曲県及河南省澠池県班村橋頭堡の警備、独立歩兵第八六大隊より山西省絳県の警備を夫々交代継承す
	爾来該地区の警備に任ず、配備左の如し
	班村橋頭堡　大隊本部及通信班、歩兵二ヶ中隊、銃砲隊
	垣曲県　歩兵二ヶ中隊
	絳県　歩兵一ヶ中隊
自五、一〇 至五、三〇	爾来大隊主力を以て盆官作戦に参加す
自六、八 至七、二七	大隊主力を以て絳県闻喜県周辺麦収作戦に参加せり。其の間兵力配備の一部を変更。

1988

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、六、三	大隊本部を垣曲県王茅鎮に位置せしむ。
八、一四	停戦詔書発布せられ
一七	加五独警作命第一九一号に依る撤収作戦を開始
	同日垣曲県及絳県の警備を撤収す。
一八	復員下令
九、二	停戦協定締結せらる
九、一八	山西省寿陽県寿陽到着、爾後同地附近に駐留す
二、二、一〇	陸軍曹長佐保明以下三九名炭鉱労務者として帰還復員せしめ
四、七	陸軍中尉杉浦伝一以下二一名を遺骨護送員として
一四	陸軍中尉吉田喜之助以下二二〇名
一九	陸軍大尉渡辺隆以下二〇四名
二〇	陸軍大尉安喰喜一以下二〇〇名を、夫々帰還復員せしめ
	大隊主力は大隊長以下一七一名
二八	加百十四師団陸軍大尉渋谷隆治の指揮に入り陽泉を出発し
五、八	塘沽港出発
一六	佐世保港上陸復員す
	兵力

1989

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

編成時充足人員　一、一〇〇名
入院者数　二一八名
死亡者数　一一五名
生死不明者数　七名（内逃亡二名）
内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

1990

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一軍独立警備歩兵第二十九大隊部隊略歴

部隊長　陸軍大尉　栗田嘉三郎

年月日	概要
	編成完結状況
昭二〇、三、一五	軍令陸甲第一八号に據り第五独立警備歩兵第二九大隊編成下令
	山西省永濟県蒲州に於て第六九師団独立歩兵第一一九大隊長編成担任
三、三〇	左記編成完結せり
	左記
	大隊本部（通信班を含む）
	歩兵五中隊
	銃砲隊一中隊（十五榴、二十八榴）
	行動概要其の目的
三、三〇	編成完結と共に山西省永濟県――茨城県――虞鄕県――解県県及黄河河防並南同蒲線の警備を第六九師団の一部と交代警備し只管管内治安粛正に専念しありたり。
自五、一〇 至五、三〇	河南省道口附近（谷官作戦）に部隊一部船田中尉の指揮する第五中隊主力並銃砲隊一部之に参加す

1991

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

八、一一　黄河対岸にありし敵方一戦区軍方七八〇約五〇〇は永済県南部地区に渡河入普し部隊は主力を以てこれを攻撃、引続き収麦作戦実施中

八、一五　矢国司令部よりの命により蒲州駐屯地に帰還し太原附近転進を準備中

八、一五　十四時隊予備方一師並方七八師約六千渡河入普し我が集結を妨害せり、依つて大隊は一部を以て之を攻撃中

八、一六　七時停戦の命を受け直ちに攻撃を中止し、大隊本部の位置に集結を命ず

該戦斗に於て戦死四、負傷二を出せり。

大隊は速かに停戦の命を分駐各隊に伝達し諸準備を整えしむ。

東章村に在りたる方二中隊は電話不通のため十一時副官山沢少尉以下二七名自動貨車に依り差遣、途中同日十三時頃蒲州南方約十粁原村附近に於て敵方七八師約一、五〇〇の不法攻撃を受け戦死山沢少尉以下十六名、生死不明一名の犠牲を出せり。

大隊は矢国より一部の犠牲を忍び速かに前進運城に集結すべしとの命令により各隊に集結地点を示し大隊主力（本部、方五中隊、銃砲隊）は

一六　二十一時二十分蒲州出発運城に向い行軍にて急進

一七　六時趙義鎮に到着、

この際、予め我が撤収行動を妨害せんと企図しありたる敵予備方一師約一、五〇〇は趙義鎮保安隊陣地に主力を置き我が方に攻撃し来たる

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	部隊は停戦に基き極力戦斗を回避せるも敵は頑迷に攻撃を続行し、部隊は自衛のため干戈を執るの止むなきに至れり。
	二十一時三十分戦斗漸く酷しくなるに至りたるも夜暗を利し逐次火力を結集し敵中を突破運城に向い急進す。
	途中虞鄉西方四粁附近並虞鄉附近に於て敵約五、六〇〇の攻撃を受けたるも之を突破
昭二〇、八、一八	十九時運城に到着せり。
	東章村に在りたる第二中隊は左翼中隊指揮し
八、一六	十一時東章村出発蒲州に向い前進中　十二時正面より渡河入晋せる第一戦区第七八師約五〇〇、中條挺身縦隊約五〇〇の敵、撤収行動を妨害攻撃し来れり。
	第二中隊は自衛の為已むを得ず該敵を攻撃、応戦約四十分にして退却、蒲州に向い急進中。
	陳村附近に至るや敵約一、五〇〇と遭遇せるも所命の任務遂行の為、強行突破し、大隊主力に追及せり。
八、一九	十四時運城到着、大隊長の掌握下に入る。
一九	十四時分駐しありたる各隊を掌握し、爾後の行動を準備す。

1993

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

八、二四　本行動間中、戦死六十四名、負傷十五名、生死不明七十五名の犠牲者を出せり。

九、四　入時運城出発、行軍に依り榆次に向い前進、

九、一四　十三時榆次着

九、一九　六時、列車輸送に依り平定県陽泉着

陽泉出発、行軍に依り平定に向い前進

同日平定着、各隊は左記地点に集結せしむ

左記

平定県城 8C 2C 4C 10　陽泉 3C 5C

矢力（入院、生死不明、死亡、其の他含む）左の如し

矢力　一、四〇三

イ、入院　一六七

ロ、死亡　二四七

ハ、生死不明　九〇

ニ、所在不明　二（編成時分遣の侭編入せらる、復員せるものと思考せらる）

ホ、入監　一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	戦容者　三五
	衛生勤務員　五
	可令部と同行　八
	乗船カード不備のため塘沽に残置　八
	残留　五六
	部隊主力復員迄復員せる者
昭二一、一、三〇	第一次復員　第隊中尉以下　二九名　山西省陽泉出発
四、七	遺骨護送員　松岡准尉〃　五一名　〃
四、一三	第二次復員　永野中尉〃　二四〇名　〃
四、二一	第三次復員　皆原大尉〃　三〇〇名　〃
四、二七	大隊長　栗田大尉〃　二二九名　〃
四、三〇	天津に向い前進、天津着
五、二	天津出発、同日塘沽着、同日塘沽出帆
五、九	佐世保に上陸せり
五、九	復員式挙行
	内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

1995

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp